



## 附 属 資 料

まちづくり総合計画の主な策定経過

礼文町総合計画策定審議会委員名簿(部会構成)

礼文町総合計画策定委員会名簿(部会構成)

まちづくり総合計画に係る諮問、答申

## 第5次新礼文町まちづくり（後期）総合計画の主な策定経過

開催年月日	内 容
平成26年10月27日	総合計画策定説明会（庁内） 分野別項目シート配布（作成依頼）
平成26年11月14日	分野別項目シート回収（最終）
平成26年11月20日	総合計画策定委員会 第1回基盤産業部会策定委員会 第1回保健医療福祉教育部会策定委員会
平成26年11月25日	第1回保健医療福祉教育部会策定委員会WG
平成26年11月26日	第1回基盤産業部会策定委員会WG
平成26年12月 1日	第2回基盤産業部会策定委員会WG
平成26年12月 4日	第2回保健医療福祉教育部会策定委員会WG
平成26年12月 5日	第2回保健医療福祉教育部会策定委員会
平成26年12月 8日	第2回基盤産業部会策定委員会
平成26年12月10日	第3回基盤産業部会策定委員会
平成26年12月18日	基盤産業部会策定委員会理事者ヒアリング
平成26年12月22日	保健医療福祉教育部会策定委員会理事者ヒアリング
平成26年12月25日	第1回礼文町総合計画策定審議会（全体会議） 第5次新礼文町まちづくり（後期）総合計画諮問
平成27年 1月20日	礼文町総合計画策定審議会 第1回基盤産業専門部会
平成27年 1月21日	礼文町総合計画策定審議会 第1回保健医療福祉教育専門部会
平成27年 2月 3日	礼文町総合計画策定審議会 保健医療福祉教育専門部会意見まとめ（部会長） 基盤産業専門部会意見まとめ（部会長）
平成27年 2月12日	第2回礼文町総合計画策定審議会（全体会議） 第5次新礼文町まちづくり（後期）総合計画答申
平成27年 3月 9日	礼文町議会において報告

## 総合計画策定審議会構成員

会 長 瀬戸川 喜太郎

副会長 和泉 優

柳谷 秀一

保健医療福祉教育部会 部会長 柳谷 秀一 副部会長 高橋 裕		基盤産業部会 部会長 和泉 優 副部会長 中村 栄宏	
礼文町議会	柏谷 裕一	礼文町議会	笹山 啓
礼文町議会	浜谷 孝雄	礼文町議会	藤田 敏春
礼文町教育委員	柳谷 秀一	船泊漁業協同組合	瀬戸川 喜太郎
礼文町社会教育委員	辻本 栄悦	香深漁業協同組合	和泉 優
礼文福祉会	高橋 裕	礼文町商工会	中村 栄宏
礼文町社会福祉協議会	道場 好	礼文島観光協会	久保 和夫
香深自治会長連絡協議会	長谷川 義孝	香深漁業協同組合青年部	赤坂 正伸
船泊自治会長連絡協議会	野坂 英章	船泊漁業協同組合青年部	今野 昌弘
礼文町文化協会	菅原 保子	礼文町商工会青年部	柳谷 和章
礼文高等学校	水石 裕一	稚内建設管理部礼文出張所	清水 研二
礼文町校長会	飯田 光	礼文地区水産普及所	鈴木 哲司
女性代表	加藤 亜紀	礼文森林事務所	井田 悠一郎
女性代表	高木 こずえ		

## 総合計画策定委員会部会構成

### ■保健医療福祉教育部会策定委員会■

課 長 職		ワークチーム	
委員長	須田 次長	チーフ	木村 主幹
副委員長	片川 所長	サブチーフ	石動 主幹
	中村 課長 田口 支署長 今井 課長		後藤 副支署長 松田 主幹 赤坂 主幹 蔵部 主幹 今野 主幹 佐々木 係長 金田一 係長 釜谷 主査 石動(仁)主査 中村 主査 石動(さ)主査 石井 主査 藤澤 主査 佐々木 主査
		書記	笹森 主査

### ■基盤産業部会策定委員会■

課 長 職		ワークチーム	
委員長	片川 課長	チーフ	岡本 主幹
副委員長	岡本 事務長	サブチーフ	小本 主査
	小軽米 支所長 北野 課長 濱谷 会計管理者 武田 事務局長		越後 主幹 中島 主幹 川村 主幹 渋谷 主査 高橋 主査 遠藤 主査 竹中 主査 武田 主査
		書記	三浦 主査

諮 問 第 1 号

平成 26 年 12 月 25 日

礼文町総合計画策定審議会会長 様

礼文町長 小 野 徹

第 5 次新礼文町まちづくり（後期）総合計画の策定について  
(諮問)

礼文町総合計画策定審議会条例第 2 条の規定に基づき、第 5 次新礼文町  
まちづくり（後期）総合計画について、貴審議会の意見を求めます。

答 申 1 号  
平成27年2月12日

礼文町長 小 野 徹 様

礼文町総合計画策定審議会  
会長 瀬戸川 喜太郎

### 礼文町総合計画に関する答申について

私達、礼文町総合計画策定審議会は、平成26年12月25日に小野町長から諮問され、意見を求められた「第5次新礼文町まちづくり（後期）総合計画」について、現在の「（前期）第5次新礼文町まちづくり総合計画」を振り返るとともに、礼文町を取り巻く大きな社会情勢を踏まえながら、審議を重ねて参りました。

諮問された計画案は、平成31年を目標年次として21世紀の礼文町のあるべき姿を描き、その実現のために必要なさまざまな分野の施策を体系化したものであり、概ね適切なものと認められます。

なお、各専門部会や審議会において提示され、さらに検討を要する事項について意見書としてまとめ提言いたしますので十分に配慮されるよう期待し、ここに答申いたします。

## 意 見 書

日本最北端の島「礼文島」は、厳しい自然環境のなか先人のたゆまざる郷土愛と努力により、水産業の町として拓かれ、昭和46年にはじめて礼文町総合振興計画を策定して以来、これまで4期に渡る総合計画のもと、水産業と観光産業を両輪としてまちづくりを進め、今日の発展を築きました。

しかし、礼文町が直面している社会情勢は依然厳しく、少子・高齢化は急速に進行し、市場経済のグローバル化は一方で輸入水産物の増大による水産物価格の低迷を招き、海洋や海岸の環境維持や貴重な高山植物の保護、未来を託す子供たちの育成や教育の充実、さらには、近年、大規模化する自然災害の脅威など、礼文町の抱える課題は山積しています。

町民がより安心して豊かな生活を送るために一層努力することはもちろんですが、次代を担う子どもたちが安心安全で恵まれた環境のなかで夢を抱き続け、誰もがゆとりと豊かさをもって礼文島に住み続けることができるよう、これまで引き継がれてきたふるさと礼文の豊かな自然や水産資源を大切にし、継承していかなければなりません。

礼文町に求められる自立した個性のあるまちづくりのためには、基盤整備や産業の振興は勿論のことですが、「人」と「人」とのふれあいを大切にし、自然を守り、自然に優しい環境共生型のまちづくりを推進する必要があると思われまます。また、喫緊の課題でもある「人口減少」に歯止めをかけるためにも、ここに答申する「第5次新礼文町まちづくり（後期）総合計画」の実効性を確保し、本総合計画のテーマである『豊かな自然を未来につなぐいきいきとした元気な礼文づくり』そして、副題である「産業創出と人口増加をめざして」を実現するために、町民や各界層の幅広い理解と協力のもと、町民と行政の協働によるまちづくりを推進するとともに、社会経済情勢を的確に把握し、効率的で柔軟性をもった行政運営、真に持続可能な行財政基盤の確立を基軸に、地方分権時代にふさわしいまちづくりを進めるよう望みます。

## 基盤産業部会における意見

元気な礼文づくりを推進するためには、第一に、社会基盤の整備を基本にした水産業や観光関連産業の振興であり、さらには礼文町の活性化のために長期的な視野のもと新たな視点に立脚した施策の展開が必要とされている。

喫緊の課題である少子化対策や定住を促進することは勿論、近年の災害を教訓に自然災害にも対応しつつ、先人から引き継いだ貴重な自然環境と豊かな海洋資源を活かし、関係団体と行政が一体となって力強い産業の振興を図り、町民一人ひとりが元気に豊かな生活を営むために一層の努力を傾注されたい。

### 1 基盤

#### [道路の整備]

本町の通学路は、歩道が無く又河川淵を通行するなど危険箇所が多く見受けられ、また、通学時間における車両の増加や大型化も進んでいます。

子どもたちの通学等の安全を守るため、歩道の整備、河川のフェンスや安全柵の設置など安全対策を早急に講じられたい。

#### [交通機関の充実]

礼文空港の休止が平成32年度まで延長されることとなりましたが、空港は離島である本町において本土とを繋ぐ大変重要な交通拠点であり、高速社会が進行するなかで住民の移動はもちろん、水産物や生產品の輸送、観光の誘致など、少子高齢化が進む本町の将来の生活、産業、経済のあり方に大きく係わってくる問題と考えます。

今回の休止期間満了を見据え、本計画期間において、早期に礼文空港の再開に向けた取組みを積極的に進められたい。

### 2 産業

#### [商工業の振興]

本町の水産漁獲量は減少傾向にあり、加工製造においても水産資源を有効活用し、島の特産品を全国へ発信するためにも、漁協や加工業者が連携し付加価値のある加工品の開発、販売をめざした産業の「6次化」を検討されたい。



## 4 生活環境

### [簡易水道の整備]

水道は、町民生活に必要不可欠なライフラインとしてこれまでも整備維持管理がなされてきたものと考えますが、いまだに雨が降ると水道水が濁っている状況にあります。

濁らない水、安全で良質な水が供給できるよう抜本的な対策を講じられたい。

## 保健医療福祉教育部会における意見

今日の社会経済情勢は著しく変化し、また、厳しい財政状況が続くなか、少子高齢社会の急速な進行に伴う人口減少問題に対応した取組みや環境問題など、礼文町において今後、保健・医療・福祉・教育分野の充実が行政の中心となる政策課題であると考えます。

まちづくりはひとづくりがポイントとなり、人は全ての基本であると考えられることから、積極的に人材の育成に取り組むとともに、町民一人ひとりが元気で安全な生活を営むために一層の努力を傾注されたい。

### 3 保健・医療・福祉

#### [児童福祉の充実]

放課後子ども教室は、この冬から帰りの時間が午後5時まで延長され、多くの保護者が喜んでいますが、一方で、勤めている保護者からは勤務帰りの時間等の関係からさらに30分延長を希望する声があります。

時間拡大によるスタッフの通年雇用等により地元子弟が帰って来て働く場ができることなども念頭に、放課後教室の時間延長を検討されたい。

#### [高齢者の充実]

近年、福祉関係団体（礼文町社会福祉協議会、礼文福祉会等）の人材の確保が非常に難しくなっている状況にあります。

高齢化が急速に進むなかで、福祉の充実を図るため、人材確保に向けた取組みを進められたい。

また、現状・課題において「隣近所同士で互いに見守りあう事も難しくなっています。」と謳われていますが、地域においては若い人がそれなりに近所の高齢者の面倒をみたり、手伝いをしている実態があります。

もっと、地域の若い人を活用し、高齢者の見守り等を託す施策の展開をすべきである。

また、IP告知端末の使い方がわからない高齢者が多いことから、もっと高齢者が気軽に使えるよう指導するなど、双方向機能を活用した見守りができるような体制づくりに取り組まれたい。

## 4 生活環境

### [消防・救急体制の充実]

現在の救急体制は、香深に1台の救急車の配置となっていますが、船泊地区の患者の場合、香深からの出動に時間がかかることになり、診療所までの距離を考えると非常に救急としての効率が悪いと考えます。

高齢化が進んでいるこれからの礼文町を考えると救急患者が増えることが十分に予想されることから、船泊地区へも救急車を配置し、救急体制の充実を図りたい。

## 5 教育・文化

### [学校教育の充実]

保・小・中・高の教育連携は、礼文の教育の位置付けのなかで進展してきていますが、今後一層の連携を発展させるため、子どもが生まれてからの成長過程を記録した「成長カルテ」の作成、共有できるシステムの導入について検討されたい。

### [礼文高校の存続と人づくり]

定員不足によって存続が危ぶまられている礼文高校については、各種支援や特色ある学習によって「すごく充実している」との声が保護者等から聞こえてきますが、一方で、礼文高校の良さが地域に伝わっていない面があるように思われます。

さらに、礼文の特色を生かした魅力ある学科づくり等を進めるとともに、「良い高校であること」をもっと子どもたちに強く発信していくべきである。